

18. 事務組織

大学事務組織の役割は、教学組織の方向性と、法人としての経営面からの将来計画の調整を円滑に行い、学校法人としての発展に寄与することである。それを具現化するための到達目標は以下の5点である。

- ・ 教学部長職と法人事務局部長職との定期的会議体にて、意思疎通を綿密に行い、連携協力を深める。
- ・ 教学組織と事務組織の末端まで、経営目標、経営戦略をふまえた具体的行動計画策定をシステム化し大学運営に定着させる。
- ・ 経営に係わる各種会議体、委員会等に教学選出代表者を参加させ、法人と教学との意見交換を充分に行い、教学の意見を積極的に反映させる。
- ・ 教学に係わる企画・立案に対して、教学への理解を十分に得るため、事務職員のSD（スタッフディベロップメント）を高め、その能力向上に寄与するシステムを導入する。
- ・ 現行マスタープラン「個性化と教育力の強化」の考えを、基本的に継続しながら、志願者増につながる経営目標を掲げ、次期取り組みとしてシステムアップを図り、教学組織との連携協力のもと、経営戦略を具現化する。

さらに、大学院の当面の到達目標は次のとおりである。

- ・ 大学院が教育研究水準の向上を図り、社会からの高い評価を得るため教育内容の改善を実施する。そのための施策として、大学院教育改善委員会設置や院生への授業アンケート実施、研究業績の評価基準を作成する。
- ・ 入学定員確保対策として大学院広報の活性化や、奨学生枠の拡充策を具現化する。

(一) 大学・学部の事務組織

(1) 事務組織と教学組織の関係

(イ) 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況

本学の法人事務組織および大学事務組織は概ね以下の構成になっている。

法人の事務処理を行う法人事務局に改革推進室、総務部および財務部を置き、学校運営全般に関する業務を行っている。また、大学長をその機構長とした学術支援機構を置いており、当機構の事務部は教学との連携協力・支援業務をもとに科研費・外部資金獲得、産官学連携等を推進している。

大学の事務処理を行う事務組織として、総務部、財務部、教務部および学生部を置き、総務部に総務課と広報課、財務部に経理課と管財課、教務部に入試課と教務課および大学院事務室、学生部に学生課と就職課を、また、共同利用施設の事務処理を行うため、図書館事務室、情報処理センター管理課、研究所事務室等の事務部門をそれ